

# 令和7年度消費生活相談の概要

令和8年6月3日  
福島県消費生活課  
(福島県消費生活センター)

令和7年度に「福島県消費生活センター」に寄せられた消費生活相談の概要は、下記のとおりです。

## 記

### 1 相談件数

**(令和7年度は3,881件、前年度より461件、13.5%の増加)**

令和7年度に県消費生活センターに寄せられた相談件数は3,881件で、令和6年度の3,420件に比べ461件、13.5%増加した。

令和6年度に引き続き、インターネット通販などの定期購入に関する相談が多く高止まりしているほか、インターネット接続回線に関する相談が多く寄せられた。

### 2 相談案件当事者の状況

**(70歳以上が最も多く、60歳以上が約44.6%を占める)**

年代別では前年度に引き続き70歳以上が1,022件(比率26.3%)と最も多く、次いで60歳代が712件(同18.3%)、50歳代が619件(同15.9%)の順となっており、60歳以上の割合が約44.6%を占めている。20歳未満は73件で、このうち令和4年4月の成年年齢引き下げにより成年となった18歳及び19歳からの相談は39件であった。

### 3 相談内容の特徴

**(「商品一般」が最も多く、「インターネット接続回線」が前年度に引き続き増加)**

#### (1) 相談件数の多い商品・役務

商品・役務別では、多い順にフィッシングメールや架空請求などの「商品一般」が500件であり、そのほか「インターネット接続回線」が162件、屋根や外壁の塗装工事などの「工事・建築」が133件であった。

令和6年度に大幅に増加した「基礎化粧品」は10件(7.6%)減少したが、依然として多く、「1回限り」とのSNS広告を見て購入したが、実際には定期購入であったため返品解約したいとの相談が引き続き多い。

#### (2) 年代別における商品・役務の特徴

20歳未満では「インターネットゲーム」が最も多く、ボディクリームなどの「他の化粧品」やダイエットサプリメントなどの「他の健康食品」も見られた。

20歳代では「エステティックサービス」が最も多かったほか、「フリーローン・サラ金」やアフィリエイト副業やタスク副業などの「他の内職・副業」も多く見られた。

30歳代以上の年代で最も多かった相談は、不審電話や迷惑メールを含む「商品一般」であった。そのほか、30歳代では「エステティックサービス」や賃貸アパートなどの「不動産貸借」が多かった。

40歳代では「フリーローン・サラ金」、50歳代では「不動産貸借」、60歳代では「インターネット接続回線」が2番目に多かった。

70歳代以上では「工事・建築」が多く、訪問販売で分電盤の交換工事や高額な屋根・外壁塗装工事の契約をしてしまったという相談が見られた。

#### (3) 販売形態・手口別の特徴

販売形態では、「定期購入」が21件(5.6%)減少したことを除き、「虚偽説明」が175件(138.9%)増加、「無料商法」が38件(30.6%)増加するなど、多くの項目で前年度に引き続き高止まりの状況が続いている。

70歳以上の高齢者、29歳以下の若者ともに「インターネット通販」の相談件数が多く、前年度に引き続き、「強引」や「説明不足」が要因と見られる相談が多い。